

2022
(R4)



右馬先だま

週に一度お茶の稽古で小森線を走りながらその日のお茶杓の銘と景色をながめながら決めます。藤娘、早苗茶摘み、青田、ほととぎす...と、移ろいでいきました。2Kの夕暮れ、ほととぎすのトウキョウトクキョクキョクとたたとし気な鳴くのを聞いて、ワー可愛らしい!! と思いましたので25日の茶事の際に使わせていただきました。床花と大山の雲南ろうばい。25日はなんと紅山ツヤクマと一緒に感嘆の声をあげてしまいました。大鹿の田んぼも全て箱苗がお行儀よく並び、爽やかな風がその間を流れています。

村の木の花が咲いたら大豆を蒔いていいんだよねと、お教之の通り畑一面に大豆を蒔きました。夏には大豆畑、大豆畑とヒオキギの花を見るのはいいものです。猿の出現と在りでしょうが、里山は共存の精神で、基本的に生活しなればいけません。右手はナシワノイバラ、左手はハコネサニツヨウノイバラが美しく、都立の白、紫、ピンク、バイカイチゲ、アヤメ、ルリボタル... 清々しくてかわいらしくて、うれしいものですね。アツエリ草、黄エビネも!!

鮎釣り解禁の時と迎之、男衆は眼をキラキラさせています。5月17日、お正介と允で愛知県矢作川へ寒い日で鮎の動きが無いのではと思える日でしたが、正介4本、允18本と釣って戻りました。1日置いて19日、今度は次男充も加わり、今度は振草川に出発。この日の成果、充10本、正介5本、允2本、正介健闘しています。お楽しみが、そのまゝ食材につながって結構なことになっています。こんな日は、サービスから戻った反子母は、正介さんがいないので、ひとく動揺します。こうだからいないかと、寝て待っていたら、帰って来るからねと言っても、どこに行っただのと、繰り返して聞いて来ます。不安なことでしょうかと、待っていたくしなく...です。正介さんにしては、少しは解放が必要ですから、釣りは大切なリフレッシュな場面であり、甦りの手段です。

縁が、益れんばかりの大鹿村、右馬先周辺です。地面は草だらけで取っても切りが無く、頭の中は草の事は、お茶のお稽古の日、ヨガに出かけていく時だけ、草の事は忘れます。先日、帰る車(トラック)の中へ耳に入ってきた89歳の老人の話。人はきょうようが、無いとダメです。音たしを耳にしたので、ドキッ!! という思いでしたが、教養ではなく、今日用が無い、ということでした。なるほど、今日することが無いとダメと。草かとは有難く思いました。